

春 秋 彩

地域に学ぶということ

熊本県立大学長

梅林 誠 爾



熊本県立大学は、来年4月の法人化に向け、地域に学ぶということ
をテーマの一つとして、大学改革を進めています。この夏、地域の方々
のご協力を得て、「もやいすと講座 in 阿蘇」を開きました。一口に阿
蘇に学ぶと言っても、その豊かな自然、歴史や文化、産業など、多く
の側面からの総合的な理解が求められます。さらに、九州内外からの
観光客誘致の企画や、海外からの農業研修の受け入れなど、外輪山を
越えて全国、世界の人々と繋がる阿蘇の生活を知りました。地域に学
ぶには、地域を越えたグローバルな視点が必要です。
参加した学生から、机上の理論と現実とのギャップを感じたとの意
見が出ました。教科書にない地域社会の現実に直面することこそ、地
域に学ぶことの始まりだと思われれます。
ところで、皆さんは八代出身の学僧、佐田介石(1818～1882)明治
15)をご存じですか。介石は、近代史の教科書には載っていないよう
ですが、調べてみると、明治維新の前夜、西洋文明の大波を拒み、伝統
重視の言論を活発に行っています。キリスト教を批判し、文明の象徴
であるランプの使用を戒め、貿易によらず国産品を愛用すべきだと国
民に説き、明治7年の台湾出兵に反対しています。熊本の近代におい
て、横井小楠、佐々友房、徳富蘇峰などに比べれば、介石は知られて
いないようです。しかし、介石の活動は、ランプに感動し、生産と貿
易によって大きく進歩する将来の日本を構想した徳富蘇峰と対照をな
し、対外進出を唱えた国権論とも異なります。保守的に過ぎ賛同はで
きなくても、介石を知ること、そこに地域に学ぶという冒険のお
代のもう一つの側面が見えてきます。
教科書にはない現実遭遇する、そこに地域に学ぶという冒険のお
もしろさがあるのではないのでしょうか。

目次

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 学長挨拶 | 8 学部紹介 |
| 2 大学改革の取組状況 | 9 学生の声・サークル便り |
| 3 教育充実のための取組 | 10 キャンパス・ニュース |
| 4・5 「もやいすと育成プログラム」スタート | 11 後援会便り |
| 6・7 就職状況・就職支援 | 12 行事予定、お知らせ |

SYUNJUSAI
熊本県立大学・学報

2005.10
VOL.23

熊本県立大学の改革に向けた取り組み状況

NO.2

<現在の検討状況>

県立大学では、昨年7月に策定された「熊本県立大学改革基本方針」を踏まえ、平成18年4月の法人化に向け、組織等の制度設計などの検討を設置者(県)とともに進めています。

今年度に入り、6月の定例県議会で公立大学法人の定款が議決され、理事長と学長を別に置くことなど法人組織の骨格が固まったところです。

今後さらに法人化後6年間の大学運営の基本となる中期目標・中期計画などの検討を進め、教育研究の充実に向けて地域、県民の皆さんの期待に応えられる大学となるよう取り組んで参ります。



第4回改革推進委員会 (H17.8)

<改革に関する取り組み経過>

【熊本県立大学】

- (財)大学基準協会から「大学基準」の適合評価を受ける(H16.3)
- 「教員の個人評価」の実施決定(H16.8)
- 改革推進委員会に学長他4人が委員として参画(H16.9～)
- 学内に組織運営、教育研究、財務会計の各作業部会を設置し、検討開始(H16.9～)
- 環境共生学研究科(博士後期課程)の開設、環境共生学部栄養教諭課程を新設(H17.4)
- インターンシップの単位化導入(H17.4)
- 「もやいすと」育成プログラムの開始(H17.8)

(年度)

H16

- 「熊本県立大学改革基本方針」(H16.7)
大学の今後の方向性を基本方針として策定
- 第1回改革推進委員会(H16.9)
組織運営、教育研究、財務会計の各検討部会の設置等
- 第2回改革推進委員会(H16.12)
公立大学法人定款素案の意見交換

H17

- 県立看護系大学院設置検討委員会(H17.3)
設置方針、設置形態等を了承
- 第3回改革推進委員会(H17.3)
公立大学法人定款原案を了承
- 県議会(H17.6)
公立大学法人定款案、評価委員会条例案の議決
- 第4回改革推進委員会(H17.8)
中期目標・中期計画(素案)の意見交換

【設置者(熊本県)】

<教育に関する中期計画(素案)の主な内容>

1 学士課程

幅広い視野や課題探求能力を身につけるため、教養教育と専門基礎教育を重視、充実する。また、社会への関心や職業観を身につけ、学習への動機付けとなる教育を実施する。

- 英語教育、情報教育の充実
- 地域課題解決と教育を結びつけた地域研究教育を充実(「もやいすと」育成プログラムの確立、フィールドワークの充実、「新熊本学」の充実等)
- 学年、学部に応じたキャリア教育の充実
- GPA制度活用による学生の「質」の確保
- 授業評価アンケートの活用等による教育の「質」の向上
- 全学のカリキュラム管理・運営について権限、責任を有する体制の整備

2 大学院課程

高度職業人の育成、研究者の養成、社会人の再教育を行うため、大学院教育の充実を図る。

- 社会人の受け入れを積極的に行うため、昼夜開講の拡充
- アドミニストレーション研究科に「看護管理コース」新設

* 改革に向けた取り組み状況(NO.1)は、2004年10月発行(vol.21)に掲載しています。

教育充実のための取り組み

GPA制度

本学では、平成16年度入学の学部生から、各科目毎の「秀、優、良、可、不可」の5段階の成績評価とは別に、1単位当たりの成績評価の平均値を5.0点満点で算出するGPA（グレード・ポイント・アヴェレージ）制度を導入しています。

成績通知書には当該学期のGPAも記載していますので、別途公表するGPA分布表により、自分の成績が学年の中でどの程度に位置するかを確認することができます。併せて、本学では、GPA 3.5以上で一定の条件を満たす成績優秀者の表彰、GPA 2.0未満の学生に対する教員の個別指導等を行い、学生の皆さんが主体的に、かつ、充実した学習効果を上げることが出来るよう支援をしています。



成績優秀者への学長表彰(H17.6)

成績通知書の提供

GPA制度導入を機に平成16年度以降の入学学生については、ご希望があれば、学生本人の同意のもと保証人（保護者）の方にも成績通知書を郵送しています。手続きの詳細については、教務課にお尋ねください。

インターンシップ

●インターンシップとは？

学生が一定期間企業等の中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行う制度のことです。

学生にとっては、在学中に就業体験をすることで仕事や企業に対する理解を深めることができ、将来自分のやりたいことが明確になるなどの大きなメリットがあります。

●単位化の導入

平成16年度入学以降の学生から、インターンシップが自由科目として単位化されました。

●春のインターンシップについて

来春（2月下旬～3月）に実施するインターンシップ（2年次対象）を11月頃に募集します。

詳細については、学生課にお尋ねください。

平成17年度(夏季) インターンシップ参加状況 期間：H17.8.8～H17.9.30

学年	文学部	環境共生学部	総合管理理学部	計
2	1	3	13	17
3	23	21	85	129
4	0	1	0	1
人数(実)	24	25	98	147

	公的団体	民間企業	計
企業団体(数)	13	59	72
人数(延)	30	124	154

インターンシップ経験者のコメント

実習先▼熊本ファミリー銀行

総合管理学部3年 山崎 拓哉さん



私は銀行での実習を体験し3つのことを学びました。

まずは「銀行業務」についてです。銀行

は、「信用」によって成り立っており、これまでの信用を活かしてこれからの信用を築いていかなければならないこと。預金、融資、営業の3つについて体験させて頂きましたが、すべての仕事が「お客様」の信用を第一に考えてなされていたのが印象に残りました。

次に「社会人としてのマナー」です。事前にビジネスマナー講座を受けていたものの、実践するとすると話は違います。特に窓口や営業での接遇では、個人のマナーが銀行そのものの評価につながります。

そして「働くこと」についてです。職場の雰囲気がとても温かく、和やかな職場の空気が印象に残りました。決して楽ではない仕事にやりがいを見つけて働いておられる行員の皆さんは輝いて見えました。

私がインターンシップを希望したのは「働く」ことがどういふことか、少しでも実感したかったからです。また、実習に参加した他の大学の方とも話をする事ができ、自己啓発にもつながりました。

「もやいすと」育成プログラムの取り組みスタート!

県立大学では、学生の皆さんが地域の問題を発見し、解決の方策を考えることができるように育成していくための教育プログラムとして「もやいすと」育成プログラムをスタートしました。

今年度は、阿蘇をフィールドに「キックオフミーティング」と「もやいすと講座 in 阿蘇」を地域の方々や阿蘇地域振興局などの協力を得ながら実施しました。



プログラムリーダー
学生部長
古賀 実
(環境共生学部 教授)

「もやいとは」

船をつなぐことや人々が集まって一緒に何かを行うという意味。熊本では、水俣病に関連して、人と人との関係や自然と人との関係を再構築する取り組みを「もやい直し」と呼んできました。

キックオフミーティング

8月5日(金)、「もやいすと」育成プログラムのスタートにあたって、(財)阿蘇地域振興デザインセンター事務局長の坂元英俊氏から「スローな阿蘇づくり」ゆっくり・のんびりASO大陸」の現状と課題」と題してご講演いただきました。



阿蘇神社
池浦秀隆氏▼



▲阿蘇火山博物館長
池辺伸一郎氏

もやいすと講座 in 阿蘇

8月10日(水)から12日(金)に行われた講座には、本学の学生18名のほか、阿蘇高校の生徒さんも参加し、1日目は阿蘇山や阿蘇の自然・歴史・食文化等について、地域の方々から講義を受けました。

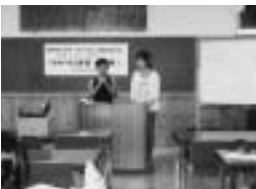
2日目は、ハウスでのトマトの収穫やイチゴの摘葉など、農作業をしました。

講演では、「日帰り客が多い施設型観光から、阿蘇に住んでいる人が阿蘇の良さを認識し、自然環境や景観を守り、その質を高めることができる地域づくり型観光への転換が必要。そのため、グリーンツーリズムなどの回遊コースづくり、循環バス運行などの交通体系づくり、そして、もてなしの人づくりをスローな阿蘇づくりとして行っている。今後、これらの地域おこしを大学とも連携しながら行っていきたい」とのお話がありました。



▲くまもとふるさと食の名人
永富美津子さん

学生達は、活動から学んだことや今回の講座について意見交換を行い、最終日には「もやいすと」育成プログラムへの提案などを行いました。



<時間割>

	午前	午後	夜間
1 00 00	熊本→阿蘇へ移動 (JR豊肥本線)	講義(公開講座)(1) ①阿蘇の自然 ②阿蘇の歴史 ③阿蘇の食文化	講義(公開講座)(1) ④博物誌と阿蘇の山野草
2 00 00	農業体験実習、実習先との交流		学生の「もやいすと」プログラム企画・運営参画に向けた意見交換会
3 00 00	講義(公開講座)(2) 協働による地域づくり レポート作成、発表	阿蘇→熊本へ移動(高森湧水トンネル→草千里経由) (バス)	

参 加 者 の 声

総合管理学部 総合管理学科 3年

浅久野 愛さん・佐藤 慶太さん
中川 敬介さん・中野 裕子さん
廣瀬 由希さん・宮崎 望さん

今回私たちは、阿蘇の現状や課題などを
知りたくて参加しました。

実際に参加してみると、阿蘇の文化や産
業について生の声を聞くことで、様々な問
題を身近に感じることができました。特に、
2日目の農業体験では、農家の現状や大変
さなど得たものが大きく、充実したもので
した。一方で参加した学生間の交流の場が
少なかったのは残念だったと思います。し
かしながら、他学部の学生が持った問題意
識などに触れることもでき、視野が広がり
良い刺激になりました。

このプログラムはまだまだ試行錯誤の段
階ですが、これから単位化を図るなどし、
大学と地域・理論と実践の連携の舞台とし
てほしいと思います。

これから、このプログラムに参加したこ
とを生かし、地域の
リーダーとなれ
るよう勉学を重ね、
将来社会に出てか
らもそれぞれの分
野で生かしていく
ことができればと
思います。



環境共生学部 生態・環境資源学専攻

2年 木村 仁美さん

恥ずかしいことに、熊本で生まれ育って
いながら私は、「阿蘇」についての知識が
ほとんどなく、「阿蘇」は遠い存在でした。
そんな中、何となく参加したこの講座の中
で、私は知らぬ間に阿蘇に魅せられていき
ました。

特に印象に残った
のはいちご農家での
農業体験です。苦手
な虫と闘いながら、
苗の世話をしたので
すが、私の手が行き
届いたのは数十株程
度で、それでも私は
体のあちこちが痛く



なり、たった一日の体験でしたが、普段何気
なく口にしている農作物に込められた農家
の方々の思いを垣間見ることができました。

阿蘇には美しい風景と美味しい食物があ
り、それらは多くの人の手で作られ、受け
継がれている。私はこの講座を機に、阿蘇
の農業を育む豊かな自然と温かな人の手の
双方を守っていききたいと強く思いました。
今後、農業と環境の繋がりを一層深く学ん
でいきたいと思っています。

参加した学生からの 主な意見・提言

全体

- ・阿蘇及びプログラム自体について勉強不足で
受け身的であった。インターンシップのよう
に、事前の学習、事後のレポート、発表の場
があると良かった。
- ・学部、学年を超えた交流ができた。
- ・スケジュールがハード。全体を通して泊数、
滞在時間を長くしてほしい。
- ・地域振興について考える良い機会となった。
- ・次回のプログラム実施に向けて、企画段階か
ら参画していきたい。

講座内容について

- ・阿蘇の文化や自然について知ることができた。
- ・講義によっては、内容が専門的すぎて難しか
った。

- ・自ら体験することで問題を身近に感じた。
- ・調理実習は郷土料理を味わうことができてよ
かったが、実習内容が準備されすぎていて物
足りなかった。
- ・地元の人々の声を生で聞くことができてよかった。
- ・同世代の阿蘇の方達との交流もよかった。

正規の授業化についての提言

- ・農業、商業、観光などのコース設定
- ・単位の認定
- ・公開講座として実施

今後、今年度の取り組みを検証しながら、「もやいすと」育成プログラムの充実
を図り、学生が自ら課題を認識・発見し、それらの解決方法を地域に提案できるよ
うになることを目指していきます。

就職状況

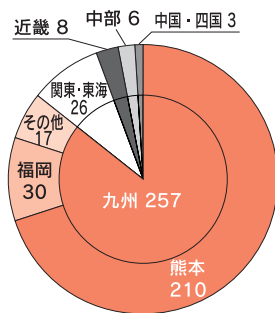
1. 就職状況内訳 (過去3年度)

	平成14年度							平成15年度							平成16年度																																																																																																																																											
	文学部		環境共生学部			総合 管理 学部	合 計	文学部		環境共生学部			総合 管理 学部	合 計	文学部		環境共生学部			総合 管理 学部	合 計																																																																																																																																					
	日本語日本文学科	英語英米文学科	生態・環境資源学専攻	居住環境学専攻	食・健康環境学専攻			日本語日本文学科	英語英米文学科	生態・環境資源学専攻	居住環境学専攻	食・健康環境学専攻			日本語日本文学科	英語英米文学科	生態・環境資源学専攻	居住環境学専攻	食・健康環境学専攻																																																																																																																																							
進路状況	卒業生総数							30							37							24							34							36							301							462							40							34							20							35							40							276							445							37							50							19							36							38							279							459						
内訳	1. 就職希望者数							19							28							14							21							22							230							334							30							25							7							25							27							213							327							28							34							9							33							33							220							357						
	決定者数							16							22							14							15							21							203							291							22							17							7							20							27							170							263							19							23							8							20							32							198							300						
	就職率							84.2							78.6							100							71.4							95.5							88.3							87.1							73.3							68							100							80							100							79.8							80.4							67.9							67.6							88.9							60.6							97.0							90.0							84.0						
内訳	2. 進学希望者数							5							4							9							8							9							4							39							3							3							12							7							7							6							38							1							4							9							3							3							13							33						
	3. その他・不明							2							3							1							4							2							32							44							1							4							1							2							0							21							29							8							12							1							0							2							46							69						

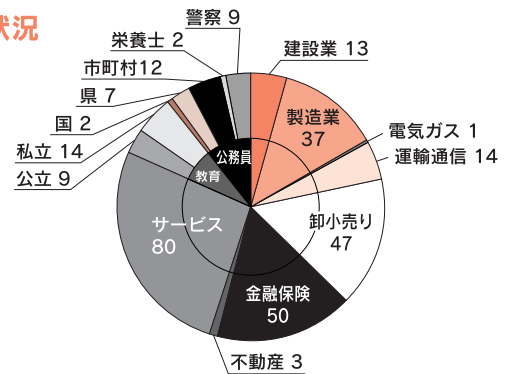
※就職率：決定者数／就職希望者数（就職希望者数は公務員志望者、教員志望者数を除く）

2. 地域別・業種別就職状況 (平成16年度卒業生)

地域別就職状況



業種別就職状況



3. 主な就職先一覧 (過去3年のデータより)

文学部

日本語日本文学科

各市町村職員・アデコキャリアスタッフ九州・イエローブック・ウェディングボックス・関西西語学院・九州産業交通・熊本大学職員・熊本ファミリー銀行・湖東カレッジ・雇用促進事業会・コスモス薬品・サンクスジャパン・ジオス・JAL九州サービス・私立高校教員・昴・南京外国語学院教員・肥後銀行・ベネッセコーポレーション・ホームセンターサンコー

英語英米文学科

熊本県教員・RKKコンピュータサービス・イーオン・エーザイ生科研・エフエム熊本・九州産業交通・近畿日本ツーリスト・熊本県経済連・熊本ファミリー銀行・熊本放送・熊本YMCA・雇用促進事業会・JAL九州サービス・私立高校教員・全日本空輸・東京エレクトロン九州・東京海上火災保険・地域経済センター・中央出版・日本航空・ニュースカイホテル・NOVA・福岡エアーサービス・メディアプレス・リクルート・横浜ロイヤルパークホテル

環境共生学部

生態・環境資源学専攻

熊本県職員・あしかがフラワーパーク・尾鷹林業・化学及血清療法研究所・鶴城・環境調査研究所・九州産廃・九州サントリープロダクト・熊本ファミリー銀行・新産住拓・国土環境・西部環境調査・同仁グローバル・日本リモナイト鉱業・ハタシ・パナファームラボラトリーズ・マテラル・みなまた環境テクノセンター

居住環境学専攻

穴吹工務店・岩下兄弟・岩永組・インハウス久永・エーザイ生科研・九建ホーム・国際協力事業団・三機工業・サンスイコンサルタント・私立高校教員・新産住宅・積水ハウス・全日空トラベル九州・タカラスタンダード・タマホーム・ダイワ建設・中央マテリアル・東日本ハウス・本田設計コンサルタント・マツクアビー・南九州ペブシコ一販販売・モードフロンティア・ルネサンス

食・健康環境学専攻

熊本県職員・各県職員・各市職員・各種学校栄養士・各種病院栄養士・熊本県成人病予防協会・エーザイ生科研・五木食品・お菓子の香梅・化学及血清療法研究所・熊本製粉・熊本県果実農業協同組合・再春館製薬所・シダックスフードサービス・私立高校教員・日清医療食品・ハウディ・富士産業・富士醤油・マルキン食品・丸美屋・三和酒類 ほか

総合管理学部

総合管理学科

国家公務員・熊本県職員・熊本県警察官・各県職員・各市町村職員・熊本県教員・アリコジャパン・化学及血清療法研究所・行政システム九州・熊本ファミリー銀行・熊本県民テレビ・熊本空港ビルディング・熊本第一信用金庫・熊本中央信用金庫・熊本県経済連・熊本県社会福祉協議会・熊本計算センター・熊本リコー・熊本ゼロックス・近代経営研究所・雇用促進事業会・金剛・サントリー・KIS 再春館製薬所・JAL熊本・全日本空輸・地域経済センター・東京エレクトロン九州・日本赤十字社熊本県支部・日本マクドナルド・西田鉄工・野村証券・肥後銀行・ホームセンターサンコー・南九州コココーラボトリング・安田生命保険・レイメイ藤井 ほか

10月以降の就職支援

■ 3年次就職支援

10月 やりたい事発見セミナー

リクルート社の適職診断プログラムR-CAP受検者を対象とした、グループワーク形式のセミナーです。

10月 3年次就職ガイダンス

本格的に始まる就職活動を前に、就職活動の自覚と心構えや就職活動の進め方について説明します。

10月～平成18年1月（毎週火曜4限目） 就職セミナー

就職活動を行うための準備として、①自己分析、②業種・業界研究、③筆記試験対策、④エントリーシート対策、⑤面接・マナー対策などについて説明します。

2月 就職セミナー（週間）

就職活動の直前対策として、1週間集中して就職セミナーを実施します。就職セミナーのなかでは、自己PRセミナー、模擬集団面接、学内企業セミナー、公務員対策、模擬試験などを行います。

2月・3月 福岡地区合同企業説明会

福岡地区で行われる合同企業説明会に、大学からバスを運行します。



■ 就職対策講座

公務員試験対策講座（2・3年生対象）※

開講時期：平成17年11月～平成18年10月（2年次）・平成18年3月（3年次）

実績のある公務員受験予備校と提携し、良質な講義を安価に提供します。2年生には、公務員試験の主要5科目について演習を交えたビデオ講義、生講義を実施し、3年生には学内外講師により実践的な問題等解説講義を行います。

簿記検定講座（3級・2級）※

検定試験に向け、学内講師が講義を行います。1年生から受講できます。

（注意）

※印の講座は後援会特別講座助成講座のため、後援会会員は特別価格で受講できます。

日程、申込み方法等詳細情報については、実施前に学内掲示等でお知らせしますので、各自で掲示を注意してご覧ください。

卒業生からのメッセージ

「生徒と共にある教師」を
目指して



熊本県宇城市立小川中学校教諭

佐藤 明日香 さん

（平成17年3月 文学部卒）

赴任して早5カ月が過ぎました。夢だった英語教師として、女子バスケット部の顧問として、そして1年生の担任として、子ども達の笑顔に支えられながら多忙な毎日をごしています。中学時代を思い起こせば、勉強や部活、友達、恋心、先生……どれもがそんな青春の思い出を持っているはずで、私は今、それを現在進行形で満喫している子ども達のそばで日々奮闘しています。

皆さんご存知のとおり、現在学校はいろんな課題に直面しています。生徒の心の中にずっと入り込んでいくには、生徒と同じ目線に立って考える柔軟性が必要です。新米でありながら先輩方と同じ仕事を要求される職場だからこそ、大学時代に色々と挑戦し経験しておく大切さを痛感しました。

後輩の皆さん、ぜひ積極的に活動してください。大学で学び、外で失敗してみることも大切です。そして夢を語ってください。人に語れば自然と仲間や情報が集まってくるものです。人との出逢いを宝物にして、自分の世界を自ら広げられる人こそ、夢を実現する人だと考えています。



環境共生学部長
大和田 紘一

第7回環境共生フォーラム
「これからの食育と栄養教諭への期待」

第7回環境共生フォーラムを食・健康環境学専攻を中心に平成17年9月4日(日)に県立大学の大講義室で開催しました。「栄養教諭」とは、新しい教諭制度で、学校教育法に栄養教諭という職務が新しく明記され、学校における食に関する指導(食教育)の充実を図るため、今年4月1日以降に導入されました。管理栄養士が小中学校などの学校に採用された場合には、学校栄養職員として学校での給食管理や栄養士としての職務を行ってききましたが、新しい制度では、栄養教諭という教員の立場で児童生徒たちの食習慣や食生活の改善などの食に関する指導と、学校給食を「生きた教材」として活用していく職務が創設され学校教育法に明記されました。本年度は、学校栄養職員で栄養教諭に必要な単位を取得することにより、栄養教諭として任用された方が全国で16名で、中々厳しいようです。本学では、今年の入学生からは栄養教諭の教職課程が始まり、新しい取得可能な資格として食・健康環境学専攻の学生には注目されています。

す。今回のフォーラムでは、管理職としての校長先生の立場や、実際に新しく栄養教諭の資格を取得された先生、また養護教諭の先生など、日頃から児童生徒と接している先生方から、日々の生活の中での食育の重要性について多くの話題提供が有り、大変有益でした。特に、朝食を摂ることの重要性が指摘され、また摂らない子が若者の約20%にもなるので、子供だけではなく、親に対する食育の教育も必要であることや、学校での給食を通じて食育に関する教育を行っていくことが重要であるとの話は印象的でした。また、この制度が出来るときに文部科学省で実際に関わってこられた、女子栄養大学の金田雅代先生は、韓国での食育に関する仕組みと対照させながら、豊富な実例を出して現在の我が国の状況について講演されました。小・中学生の体力が非常に落ちてきていること、これを克服するには栄養摂取のバランスを重視した食育に関する教育がこれまで以上に大切であるとのことでした。この制度がよく機能するかどうかは、栄養教諭になった先生の努力にかかっているとの励ましの言葉もありました。



この制度が出来るときに文部科学省で実際に関わってこられた、女子栄養大学の金田雅代先生は、韓国での食育に関する仕組みと対照させながら、豊富な実例を出して現在の我が国の状況について講演されました。小・中学生の体力が非常に落ちてきていること、これを克服するには栄養摂取のバランスを重視した食育に関する教育がこれまで以上に大切であるとのことでした。この制度がよく機能するかどうかは、栄養教諭になった先生の努力にかかっているとの励ましの言葉もありました。

環境共生学部のトピック

平成17年7月、生態・環境資源学専攻の張代洲助教授の「東アジア-西太平洋地域での大気の流れとそれに伴うエアロゾル粒子の変質に関する研究」が日本エアロゾル学会から奨励賞を受賞しました。大気エアロゾルとは、大気中に存在する細かい粒子を意味します。身近なところでは、春先になると大陸からやってくる黄砂を思い出せば分かるかと思えます。黄砂現象は、中国西部の砂漠地方で砂嵐などにより舞い上がった細かい土壌粒子が大気エアロゾルとなって日本を初め、太平洋に広く運ばれてくる現象ですが、まだそのグローバルな影響については十分分かっていません。張先生は中国や日本の研究者と共に、電子顕微鏡を用いた観測技術の開発や、発生源の地方やその他多くの場



◀黄砂の電子顕微鏡写真

所に出かけて、大気エアロゾルの成分とその動きを細かく解析し、その結果を国際誌に多くの論文として発表してきています。今後とも研究の発展が期待されます。



◀海洋観測調査での採水・採泥



▶ネット試料中のプランクトンの顕微鏡観察

環境共生学部の水産環境アセスメント実習

健康環境学専攻では、環境共生学部に所属している利点を生かして、単に栄養や食物に関する化学や管理栄養士になるための教育だけではなく、環境との関連を重視した食に関する指導(食育)を推進し、食物が生産される過程での食の安全や食物が生産される場所の環境について、現場での実習やフィールドワークを通じて学生が体験できるカリキュラムがそろっているのが特徴です。

本学は古くより、栄養士養成の機関としては全国的にも伝統がありますが、平成14年度からは管理栄養士養成課程が認められ、管理栄養士の資格を得るための教育を行っています。食・健康環境学専攻では、環境共生学部に所属している利点を生かして、単に栄養や食物に関する化学や管理栄養士になるための教育だけではなく、環境との関連を重視した食に関する指導(食育)を推進し、食物が生産される過程での食の安全や食物が生産される場所の環境について、現場での実習やフィールドワークを通じて学生が体験できるカリキュラムがそろっているのが特徴です。

学生の声



後援会「自主研究推進助成事業」に参加して

環境共生学部 生態・環境資源学専攻
4年 アジアこみPICA隊



佐志 綾乃さん

「新学期から独り暮らしを始める新入生に、リサイクルショップをぜひ活用してほしい！」という想いから、県立大学周辺の『リサイクルショップマップ(RSM)』を作りました。

実際にお店を訪問して話を伺ったり、自分たちで本のデザインをしたり、完成までに挫折感も味わいましたが、完成品を目にした時には、達成した喜びと充実感を得ることができました。作成後、このRSMを手にリサイクルショップに行った、という嬉しい声を聞きます。今後は、新入生・卒業生に限らず、在学生や先生方、保護者方にも活用していただけたら幸いです。

学生が社会活動を行う場合、自身の行動力とチームの団結力、よきアドバイザーの存在は必須ですが、多少の資金があつてこそより充実した活動ができると考えています。この助成金事業のおかげで、私たちもRSMをこのような印刷物として発行することができたのです。

やる気とアイディアを持った後輩の皆さんにもこの制度を活用して、興味のあることに意欲的にチャレンジしてほしいと思います。



リサイクルショップへの訪問



RSM

サークル便り

箏曲部



「箏」とは和楽器の琴のことです。

今日はー

箏曲部です。

弦の数が13本のもを箏とい

います。現在、箏曲部では三味線を演奏したりもしています。部員は13名と少人数ですが、週に1度、講師をお招きして楽しく練習に励んでいます。

最近、和楽器が注目されており、学内での交流会で演奏するほかに、県内のイベントで演奏したりもしています。今年は正月三が日にホテルで演奏させていただきましたり、交通センター主催の「さくら祭り」や、今年第一回目の上通りでの「ゆかた祭り」にも参加させていただきました。「ゆかた祭り」では初めての浴衣を着ての演奏でしたので、新鮮で、皆楽しく演奏することができました。

11月23日、勤労感謝の日には、今年で34回目を迎える定期演奏会を、子ども文化会館(熊本市)にて行います。芸術の秋にふさわしく、多くの人に和楽器の音色を楽しんでもらえるよう、頑張ります！



「ゆかた祭り」での演奏

環境共生学部
生態・環境資源学専攻 3年
部長 矢野 佑佳さん

学生の表彰

「天草晩柑料理・加工品コンクール」

料理部門で最優秀賞を受賞

天草産の河内晩柑の消費拡大とブランド確立を目的に「天草晩柑料理・加工品コンクール(主催:熊本県天草地域振興局)」が6月に実施され、応募総数112点の中から、実技による本審査の結果、環境共生学部 山下理恵さんの「ジュシーれんこんまんじゅう」が、料理部門の最優秀賞に輝きました。



実技による本審査



ジュシーれんこんまんじゅう



山下 理恵さん

環境共生学部
食・健康環境学専攻 4年

「晩柑の酸味を生かすため、れんこんまんじゅうに練り込むだけでなく、あんかけにも入れました。果肉を手でほぐしているので、ぶちぶちとした食感が楽しめます」

●CALLシステム 運用開始!

CALLシステムは、パソコンを使って英語を学習するシステムです。まず、最初にレベル診断テストを受験し、反復学習や音声スピードコントロールなどコンピューターならではの機能を駆使し、学生ひとりひとりのレベルに応じて学習を進めることができます。TOEIC®スコアアップのためのプログラムも準備し、主に英語の講義の時間を利用して、「読む」「聞く」「話す」といった英語の総合力の向上に役立てています。



●国際交流

本学の協定校である米国・モンタナ州立大学ビリングス校と韓国・祥明大学の短期研修団が、それぞれ5月と7

月に本学を訪れました。本学では日本語等の授業をはじめ、浴衣の着付けや茶道、華道な



サークル(茶道部)との交流

どの日本文化体験や学食での歓迎会、ホームステイ等を通じて、学生達との盛んな交流が行われました。

特に、祥明大学短期研修団への日本語の授業では本学院生と学部4年生が中心となって「日本語で水戸黄門の劇をする」という内容の授業を計画・担当しました。

「古今和歌集」1100年熊本フォーラムを開催します!

熊本県立大学地域交流センターでは、地域に関連する研究成果を社会に還元することを目的として、研究成果報告会を開催しています。来る11月4日には「古今和歌集1100年熊本フォーラム」の一環として、本学講堂にて文学部主催による和歌伝授に関するワークショップを行います。また、5日には熊本市内総合女性センターにて市内三大学共催のシンポジウムを予定しています。詳しくは地域交流センターまで。

TEL 096-383-2929 (内線 225)



日本語劇「水戸黄門」

また、研修団は、阿蘇など熊本県の観光地を訪問し、思い出深い熊本となったようです。



阿蘇火口見学

学生相談窓口

気軽に保健室へ

皆さんが自己の可能性を最大限に発揮していきいきと自分らしく充実した学生生活を送れるように学生相談を実施しています。困ったり、悩んだり、どこに相談したらいいかわからない時など、気軽に訪ねて下さい。体や心の相談、友人や家族のこと、その他なんでも自由にどうぞ。おしゃべりを楽しむ気持ちで立ち寄って下さい。



保健室内の相談コーナー

相談内容に応じて各専門分野の先生方への紹介も行っていきます。

今年7月から保健室で働いています保健師の村山です。よろしくお願ひします。



●相談時間：月曜日～金曜日
午前9時30分から午後4時30分
*電子メールや電話でも受け付けています。
TEL 096-383-2929
保健室(内線 216) 学生課(内線 204)
Eメール m-yumiko@pu-kumamoto.ac.jp

セクシュアル・ハラスメント防止対策

学生の皆さんが快適で安心なキャンパスライフを送れるよう、セクハラ防止委員会や相談員制度を設けています。セクハラ相談員は各学部の教員2名ずつと事務局次長、学生部長、学生課長の計9名で、名簿は学内掲示やホームページで確認することができます。

悩み事は一人で抱え込まず、気軽に相談してみてください。

後援会便り

後援会とは、

- 本学在学生の父母またはこれに準ずる方を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

平成17年度後援会評議員会、総会の開催

去る6月25日に、学内で評議員会及び総会が開催され、評議員22名、会員164名の方に参加いただきました。また、総会終了後には各学部に分かれ、学部長はじめ教員数名と会員の方との懇談会が行われ、質疑応答等活発な交流が行われました。

平成17年度(前期)の主な実績

1 就職対策

- ・公務員講座、各種資格取得講座、マスコミ講座等を実施。(一部講座について、受講料を助成)
- ・夏休みのインターンシップ研修生等を対象に、ビジネスマナー講座(計4回)を実施。
- ・R-CAP(適職診断プログラム)受検料を助成。(3年次)
- ・県立大学オリジナルの就職ガイドブックを制作配布。(3年次)

2 学生生活支援

40サークル(文化系19、体育系21)に助成。

3 国際交流推進

モンタナピリングス校への夏期語学研修プログラム参加者(8名)、祥明大 schools への短期研修参加者(14名)、海外で語学研修した学生1名に助成。

4 学生共同自主研究推進助成

- ・下の4件を含む11の研究テーマを採択。(申請17件。企画書・プレゼンテーションにより審査)

◎平成17年度 学生共同自主研究助成事業のテーマ

参加学生数	研究テーマ
17	美里町恵照寺文書の位置づけに関する研究
6	ゴミ出しのマナーに関する調査
12	建築の医療～住宅における日常の疑問に答えるまちのお医者さん～
14	国際関係・アジア理解のための映画ガイド作成

他7件。

平成17年度事業の新たな動き

- ・学部、学科(専攻)等が実施する就職支援事業を助成。(新規)
- ・図書館と就職センターのコピー機を更新。
- ・タイのワライラック大学研修団との交流事業を支援。(新規)
- ・学生大会等助成金の交付。(新規)
日本学生経済ゼミナール(中央大学にて12月に開催)他
- ・リクエスト図書の購入。(新規)
購入したい図書をリクエストしてください。
図書館などで申し込む事が出来ます。



ワライラック大学研修団との交流会での留学生による民族舞踊の披露

● 熊本県立大学 後援会事務局(内線237) ・ 学生課(内線204) ●

月	日	内 容
10月	3日	後期授業開始
	4日	3次就職ガイダンス
	5日	インターンシップ発表会
	11日	3年次就職セミナー(毎週火曜) (~1月24日)
	20日	大学院文学研究科入学試験 (秋季募集)
11月	上旬	公務員講座開講(3年次H18.3まで、 2年次H18.10まで)
	4・5日	古今和歌集1100年熊本フォーラム(熊 本県立大学研究成果報告会) 4日:ワークショップ(講堂兼17番教室) 5日:同シンポジウム(熊本市総合女 性センター)
	12日	学園祭「白亜祭」(~13日)
	12月	上旬 外国人留学生との交流会 4日 特別選抜(推薦、社会人、帰国子女) 入学試験 10日 第2回TOEIC®団体特別試験 24日 冬季休業(~1月9日)
1月	10日	授業再開
	21・22日	大学入試センター試験
	30日	後期試験(~2月10日)
	31日	授業料第3期分納入期限
2月	4日	大学院環境共生学研究科博士前期 課程入学試験(春季募集)
	13日	3年次就職セミナー(週間)(~17日)
	14日	大学院文学研究科入学試験(春季募集)
	//	特別選抜(私費外国人)入学試験
	16日	大学院環境共生学研究科博士後期 課程入学試験(春季募集)
	25日	一般選抜入学試験(前期日程)
下旬	春季インターンシップ(1~2週間) (~3月)	
下旬 (未定)	祥明大 短期留学生派遣(1年間) 大学院アドミニストレーション研究科 入学試験(春季募集)	
3月	12日	一般選抜入学試験(後期日程)
	18日	卒業式(於:熊本県立劇場)
	25日	春季休業(~4月8日)

* 期日は変更となる可能性がありますので、学内掲示板により確認するか、担当課までお問い合わせ下さい。

● 附属図書館からのお知らせ

図書館では、下記のサービスを提供しています。調査・研究や学習にフルにご利用ください。

■ 在学生に対するサービス

- 館内閲覧、貸出サービス(2週間以内、5冊以内)
- 視聴覚コーナーでのビデオ・DVD等の視聴利用
- 相互利用サービス(他大学図書館からの図書の貸出・複写利用)
- 1階パソコン端末による雑誌記事や朝日新聞記事等の検索等
- CD-ROM利用(辞書、新聞記事等)
- 延滞図書発生の電子メール通知(携帯電話への転送も可)

■ 県民の皆さんに対するサービス

- 閲覧、貸出サービス(2週間以内、3冊以内)
- ※ご利用にあたっては図書館利用証が必要です。利用証の交付申請は、図書館1階カウンターで受け付けています。(確認のため、運転免許証・保険証等をご持参ください。)
- ※学部試験期(7月末、1月末~2月中旬)は学生の利用が多くなるため、県民の方の利用はお断りしています。

開館時間 平日 8:40~21:00 土曜 10:00~16:00

休館日 日曜、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)、開学記念日(5月2日)
その他、臨時休館や開館時間を変更する場合があります。

どういう図書が所蔵されているかについてはインターネットで県立大学ホームページから所蔵図書の検索もできますのでご利用ください。

「県大最大のイベント☆白亜祭☆によろこそ」
-41SHOW!!...前進...-

第41回白亜祭実行委員長(環境共生学部3年) 石田 晴菜さん

今年の白亜祭のテーマは「-41SHOW(ヨイショ)!!...前進...」です。県立大学の魅力を存分に発揮できる学園祭を目指しています。白亜祭は「☆お祭り☆」!!地域の方々育てた新鮮な野菜販売やおいしい模擬店なども盛り沢山。「バナマン」による笑ってこらえて「お笑いライブ」のほか、代々続くミス・ミスターコンテストや来場者も参加できる楽しいステージ企画を準備して、皆様のご来場をお待ちしています。11月12日(土)と13日(日)は、白亜祭で、最高の一時をお楽しみください!!



昨年度の白亜祭

「春秋彩」へのご意見・ご感想お待ちしております。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。いただいたご意見などは、今後の学報編集の参考にさせていただきます。

〒862-8502(住所記載不要)

熊本県立大学地域交流センター「春秋彩」担当行

FAX: 096-384-6765

E-mail: koryu-c@pu-kumamoto.ac.jp

■ 春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の詩書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学

発行: 熊本県立大学
〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL. 096(383)2929(代) FAX. 096(384)6765
http://www.pu-kumamoto.ac.jp/

17 総 熊県大

③ 004-1

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています